# 「第５回　空港運営のあり方に関する検討会」議事概要

～空港ビル会社・海外LCCからのヒアリング～

日時　：平成２３年３月８日（火）
場所　：国土交通省３号館４階幹部会議室
発表者：日本空港ビルデング(株) 土井勝二　氏　古賀茉貴雄　氏／
那覇空港ビルディング(株)　島田章一郎 氏／宮崎空港ビル(株)　長濵保廣 氏／
北陸エアターミナルビル(株)　岡田靖弘 氏／
ジェットスター航空　Mr. Bruce Buchanan　Mr. Vincent Hodder

## ○発表内容及び主な質疑

### 日本空港ビルデング(株) 土井勝二　氏　古賀茉貴雄　氏

［発表概要］
空港経営の上下一体化、民間への経営委託・民営化は、空港全体の効率的運営という観点からは有効な手段の一つであるが、羽田空港においては、今後の施設整備のための投資や既存の債務の償還等、多くの課題があると指摘。また、当社は上場企業であることから、どのように企業価値を向上させていくのかについて、常に株主や投資家へ対する説明責任を負っている。これまでも純民間企業として、効率的な経営、必要な施設整備及び適切なサービスの提供に努める一方で、航空会社等に対する家賃・施設利用料の引き下げ等の経営努力も行ってきたと説明。

### 那覇空港ビルディング(株)　島田章一郎 氏

［発表概要］
当社としては、空港の上下一体化の意義は理解できるし、空港経営の効率化が図れるように前向きに検討していきたいが、上下一体後の採算性についてはよく検討する必要がある。那覇空港は、民有地借上単価が年々上昇しており、今後も大きな赤字が想定されると指摘。空港ビル会社としても、現国内線ビル建設のための多額の借入金が残っており、更に新国際線ビルの建設等の投資も控えていることから、経営の徹底した合理化と効率化を実施の上、大幅な増資も計画していることを説明。

### 宮崎空港ビル(株)　長濵保廣 氏

［発表概要］
宮崎空港の現況について、路線数はピーク時より７路線減、搭乗客数は２３％ダウンと厳しい状況にあることを説明。空港の利用促進に向けてイベント等を開催し努力しているものの、昔ほどお土産等を購入しない、空港で食事しない、といったお客様の行動の変化を指摘。そのような中で経営一体化を実現するためには、慎重な収支計画が必要であり、また仮に赤字の場合であっても、地方にとっては生活路線であるため、国・地方の支援が不可欠であると言及。

### 北陸エアターミナルビル(株)　岡田靖弘 氏

［発表概要］
航空自衛隊との共用、東京便に特化（利用者全体の８０％）及び貨物年間取扱高全国７位といった小松空港の特色を説明。空港経営の一体化実施については、個々の空港が地域に果たしている役割等を十分に精査した上で判断するべき。北陸新幹線の金沢開業については、何も対策を講じなければ相当数の旅客が奪われる可能性があるが、一方で、後背圏が拡大することも予想されるため、利用者にとって利用しやすい路線の確保等の対策を講じていければ維持・対抗できると言及。

### ジェットスター航空　Mr. Bruce Buchanan, Mr. Vincent Hodder

［発表概要］
　ジェットスターは、オーストラリアからビジネスを始め、東南アジアと北アジア全体をカバーする航空会社に成長。北アジア、日中韓の３カ国は、この１０年順調に成長を遂げて、その後も成長を続けると説明。ビジネスを展開する上では、空港との長期的（例えば１０年以上）なパートナーシップが大事であり、生産性と効率性、単純なビジネスがコスト低減のカギになると言及。また、空港と空港ビルの利益は二律背反の関係にあることから、上下一体化をするべき。日本の国内線のマーケットについては大変興味があると発表。